

平成30年度 中央区立久松幼稚園 自己評価報告書

中央区立久松幼稚園 住所 東京都中央区日本橋久松町7-2

園長 太田 禎子

幼児数 178名 学級数 7 教員数 9名 職員数 5名

教育目標

人間尊重の精神を基調として、生きる力の基礎を培う教育を推進する。心身ともに健康で主体的に身近な環境や人と関わりながら、節度ある礼儀や基本的生活習慣、規範意識の基礎を培うことを目指し、次のような子どもの育成に努める。

- たくましい子 ・心身ともに健康な子を育てる。
- 進んでやる子 ・素直に表現し、自ら考え進んで行動できる子を育てる。
- 心豊かな子 ・思いやりの心を持ち、心豊かな子を育てる。

30年度の重点 豊かな心と健やかな体の育成（連続性のある久松の教育を推進）

重点目標1

自分から進んで健康で豊かな生活を送れるようにするために、様々な経験を積み重ね、必要な習慣や態度を身に付ける。

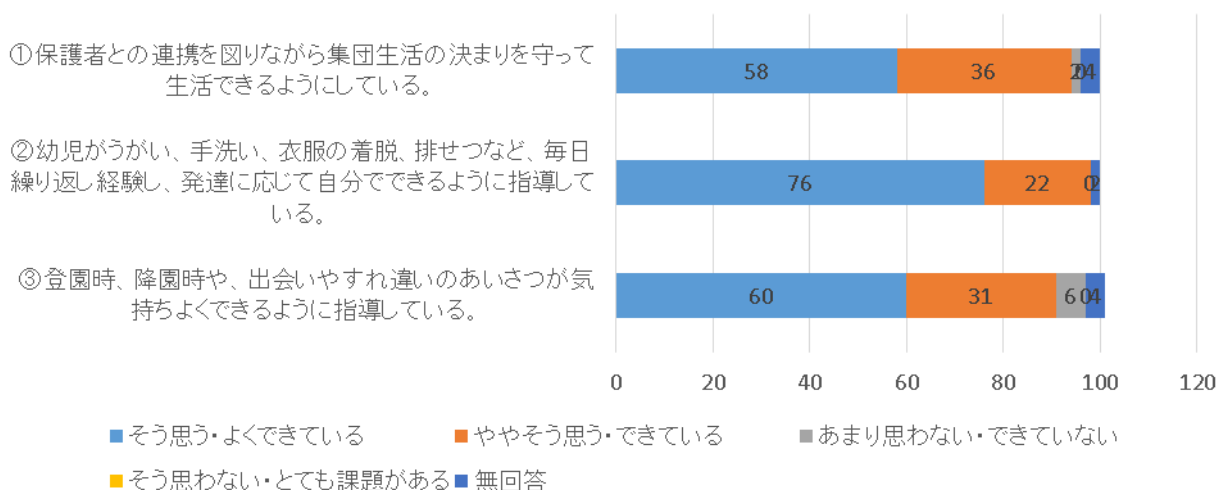
（道徳性の芽生え、規範意識、自立心の芽生え）

評価項目：

- ① 保護者との連携を図りながら、温かく、規律ある幼稚園生活を送る。
- ② 幼稚園の様々な活動の中で、幼児一人一人の生活習慣を形成する。
- ③ 様々な人と関わる場であいさつをする心地よさを味わえるようにする。

評価指標：グラフ内に記載（保護者・外部評価委員の評価8割以上）

保護者アンケート 重点目標1



## 重点目標 2

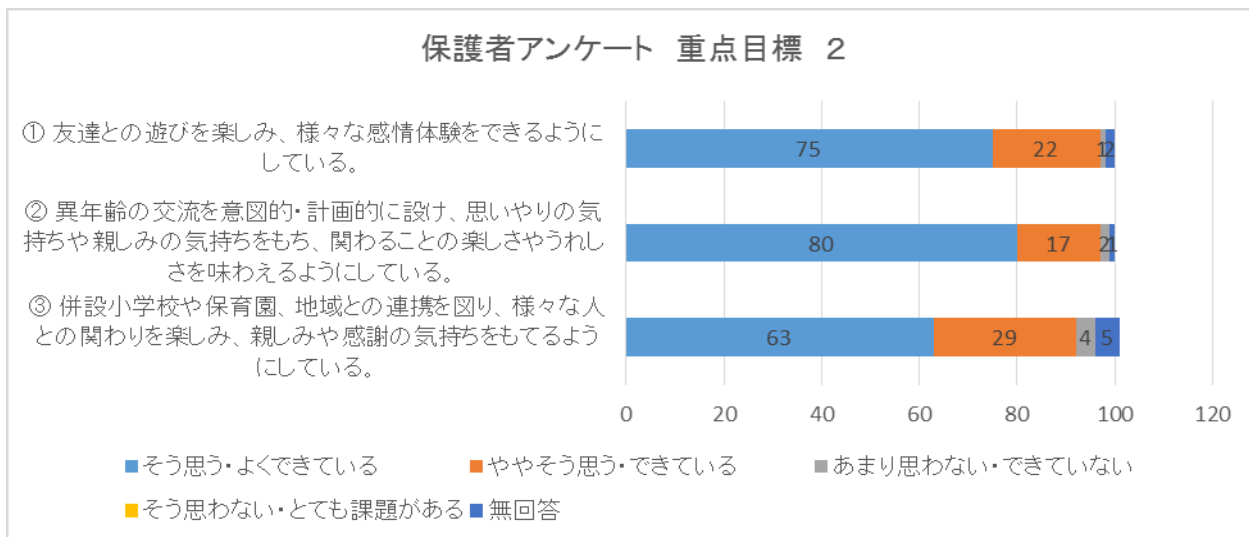
学級・学年を超えた関わりがもてるような交流活動を充実させ、様々な感情体験をしたり触れ合いの温かさを感じたりして、思いやりの心を育む。

(多様な関わり、思考力の芽生え、協調性、言葉による伝え合い、認め合い、譲り合い)

評価項目：

- ① 関わることを楽しむために、異年齢の交流を意図的・計画的に設ける。
- ② 学級・学年間の交流の他、小グループでの異年齢の触れ合いの機会や遊びの場を設け、発達に応じた関わりを経験から学ぶ。
- ③ 小学生、保育園児、地域の様々な人との交流の機会を設け、触れ合いの温かさを感じる。

評価指標：グラフ内に記載（保護者・外部評価委員の評価 8 割以上）



## 重点目標 3

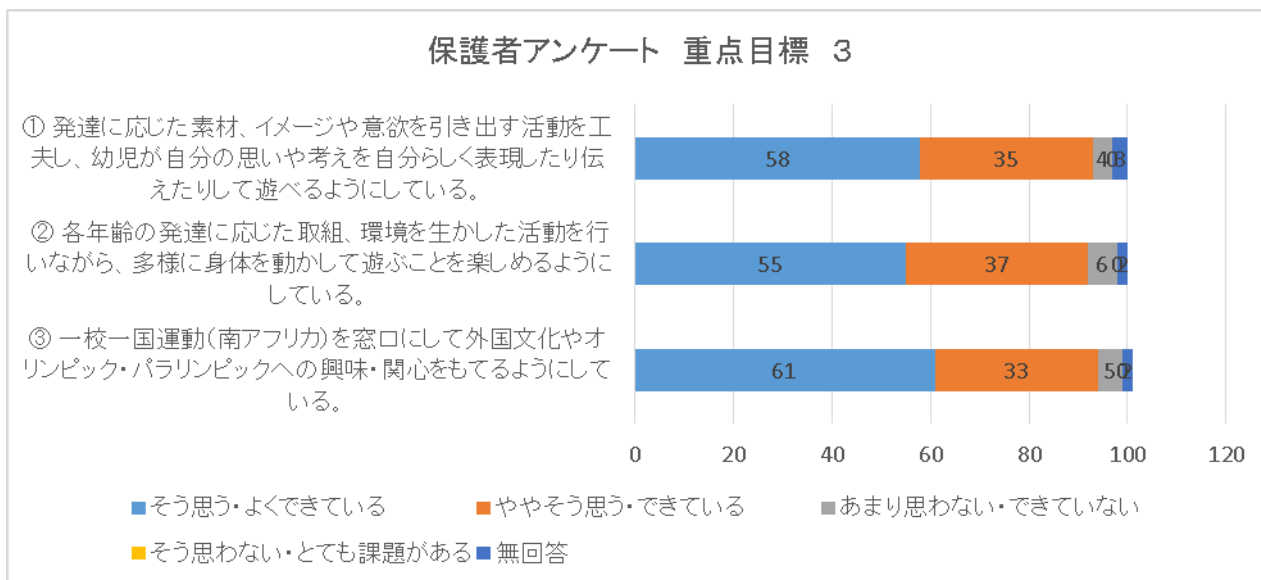
多様な運動遊びや思いを豊かに表現する遊びを通して、たくましい心と体を育成する。

(協調性、道徳性の芽生え、製作や体の動きによる表現、言葉による伝え合い)

評価項目：

- ① 材料を工夫して製作をしたり、友達とイメージを伝え合ったりして遊ぶ経験を積み重ねる。
- ② 環境を生かした活動を発達に応じて行い、多様に体を動かして遊ぶ経験を積み重ねる。
- ③ オリンピック・パラリンピック教育（健康と体力、国際理解、人権教育）を推進する。

評価指標：グラフ内に記載（保護者・外部評価委員の評価 8 割以上）



## 重点目標 4

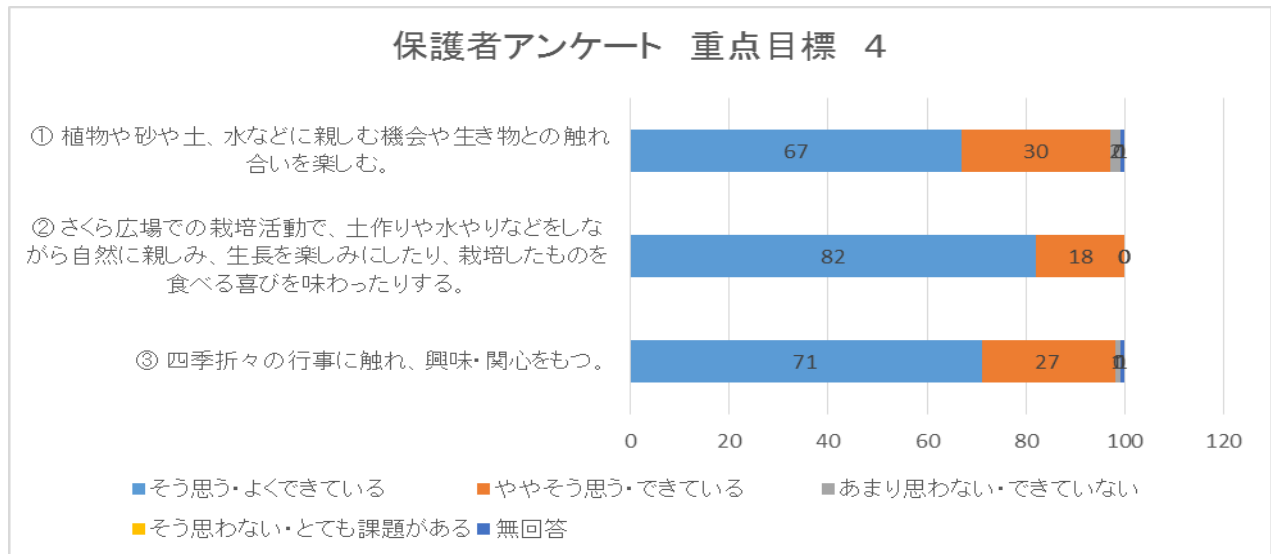
栽培活動、食育、伝統行事を積極的に取り入れ、幼児の生活や心情を豊かにする。

(豊かな心と健やかな体、自然との関わり、豊かな感性と表現)

評価項目：

- ① 植物を栽培したり、自然物に触れて遊んだりして、心を動かす経験ができるようにする。
- ② 楽しく弁当を食べること、栽培物を育てて食べることを通して食育を推進する。
- ③ 伝統行事を通して季節感を味わったり、様々な人と関わったりして豊かな心情を育む。

評価指標：グラフ内に記載（保護者・外部評価委員の評価 8 割以上）



### 教員・保護者のアンケート結果から分かったこと・今後に向けて

#### 1 重点目標の達成状況と取組状況

##### 重点目標 1

- ・朝は、保護者の方の協力を得て、気持ちよく朝のスタートが切れている。幼児の生活習慣についても、家庭、幼稚園とでの日々の繰り返しの成果が見られている。
- ・登園時の園長とのあいさつでは、本年度も年長児の姿をモデルとして、3歳児でも止まって目を見て、元気な声ですする姿が少しずつ増えてきた。
- ・保護者の方からは、行き帰りに他の家族と挨拶を気持ちよくできていなかったり、公園などでご自分のお子さんをしっかり見ていなかったりすることがあるという様子を嘆かれている声があった。また、大人がモデルとなることが大切という意見もいただいた。
- ・自転車の駐輪、ベビーカーや靴の置き場などは引き続き、マナー徹底をお願いしていく。
- ・生活習慣の確立や日頃、様々な人とのあいさつでは家庭での声掛けや指導も大切なので、保護者とさらなる連携を図って取り組んでいきたい。

##### 重点目標 2

- ・幼稚園での異学年との触れ合い、学び合いは本園のもっとも大事にしているところである。本年度も広い廊下や校庭、さくら広場などを中心に異学年の幼児が関わったり、教え合ったりして遊ぶ姿が多く見られた。予想される遊びでは、教員同士が援助について事前の打ち合わせを大切にしてきた。
- ・小学校との交流においては、昨年度の経験を生かして行うことができた。また、展覧会では、小学生の作品に大変興味をもち、じっくりと鑑賞し、小学生へのあこがれの気持ちも高まった。4、5年生と一緒に粘土製作をする機会をもつことができた。展覧会当日ペアで作品を見て回ったこともよい経験となった。
- ・生活の中で小学生がよく声を掛けてくれて、年少、年中児も身近に感じられていたと思う。交流活

動の少ない年少、年中児のこうした小学生との触れ合いの姿も保護者にもっと伝えていきたい。

### 重点目標3

- ・造形面での表現においては、紙や空き箱等を使った遊びの環境があることや、創造力を育んでいることの評価をいただいた。学校評価アンケートの後であるが、3学期の展覧会で子どもたちが伸び伸びと表現している作品を見ていただくことができた。日頃から保護者の方に観ていただく工夫をしていくとよい。
- ・運動遊びについては、自分から挑戦して遊んでいる姿や元気に体を動かしている姿を喜ぶ声をいただいた。一方、環境面として十分に体を動かして遊べる空間がないことへの心配も伝わってきた。
- ・日常の遊びの中で、幼児がイメージをもちやすい環境を設定したり、個々の実態に応じた言葉掛けや援助をしたりすることで、やってみようとする意欲や繰り返し挑戦する姿につながった。(チャレンジメダル、投げる目標物、イメージのある鬼遊びなど)
- ・昨年度の反省から、体育館やグリーンアリーナの活用も多く取り入れた。
- ・教員としては、校庭とさくら広場とで環境が分かれていることでの、時間や場を区切った指導、教師間での声かけなどが引き続き大きな課題としてあげられた。連携体制に努めていきたい。
- ・長い廊下にケンパがしたくなる環境づくりは昨年度からまた時期に応じて変化をつけたことで、年間を通して楽しく活用できた。今後も工夫を続けていく。
- ・「投げて遊ぼう！」の活動で、現役プロ野球選手の講師の先生からご指導いただいたことで、各学年投げることに興味をもって取り組んだり、投げる時の体の動きを意識したりする姿が見られた。また、投げる距離の数値を測定した結果から、1学期の数値より距離が伸びている幼児が増加した。要因としては、講師の先生から教えていただいた投げ方を自然と遊びの中で行っている幼児が増えことや、玉入れ、ドッジボールなどの運動遊びを繰り返し行い、投げる経験を積み重ねてきたことが挙げられる。
- ・運動遊びについてのアンケートを実施したことで、家庭での実態を把握し、保育の活動内容を工夫することができた。

### 重点目標4

- ・今年度も栽培活動においては保護者の評価がとても高い。さくら広場での活動の充実にさらに努めていく。家庭にも参観で見ていただいた食育教室は大変好評だった。日頃から幼児自身が栄養バランスについての会話がされるようになっている。
- ・砂場での遊びや、自然に触れる機会などにおいて、教員からの反省点が多い。地面が土ではなく、プランター内の限りある環境において、早い時期での計画立案と実践を目指したい。

## 2 その他

### ○保育の充実に向けて

- ・幼稚園生活での遊びの大切さ、遊びの中での学びについて、具体的に発信していく工夫が必要である。幼稚園教育要領全面実施において、全教職員で大事にしている日々の生活について、行事との関係、人との関わり等発信し、教育内容が伝わるように努め、家庭との連続性のある生活となるようにしていく。
- ・教員数についての御意見も多く見られた。保育の組み立てや環境の工夫とともに、学年を超えた教職員の協力体制に力を入れ、安全面の確保を行っていく。また、教育委員会とは常に連携をとり、よりよい体制づくりに努めていく。

### ○オリンピック・パラリンピック教育について

- ・昨年度に続いて、一校一國運動の対象国「南アフリカ」の文化に触れる機会を設定し、南アフリカの音楽に親しみ、体中で楽しむことができた。このほか、いろいろなスポーツ選手の活躍を話題にすることが多く、園児の興味・関心も高く、保育環境にも取り入れて、様々な話題、遊びで楽しむことにつながった。今後は特に、運動遊びの充実に努めていきたい。東京オリンピック・パラリンピック開催への期待につながっていかれるようにしたい。

### 平成31年度に向けた取組

- 1 新教育要領に基づき、遊びを通しての総合的な指導、環境を通して行う教育、という幼稚園教育の基本を大切にし、実践していく。「豊かな心と健やかな体を育成する」ことを目指して、「自分らしく表現する幼児の育成」の研究を進め、指導・環境の工夫に努める。
- 2 運動遊び推進園として、計画的に多様な運動遊びを取り入れる。30年度の実践を基に、思わず体を動かしたくなるような遊具や用具を工夫し、体を動かすこと十分に楽しめるようにする。特に発達に応じていろいろなボール遊び、鬼遊びを経験できるようにしていく。
- 3 幼稚園での異学年との触れ合い、学び合いは本園のもっとも大事にしているところである。今年度の振り返りを活かし、廊下やサクラ広場、園庭の活用など環境の工夫や行事での関わりなどの充実を目指す。様々な感情体験ができるようにしていく。
- 4 保護者への保育内容のわかりやすい発信に努め連携を深めていく。その中で地域に開かれた幼稚園づくりに努める。